

文・写真 松澤美穂

地方 紀民 行鉄

クリスマスイベントに落語会、ハイキングに地酒の発売……。わずから5.5kmの鉄道は色とりどりの企画で一杯。

水間鉄道株式会社



大阪、難波から南海電鉄で約30分。水間鉄道貝塚駅は南海電鉄貝塚駅と隣接して建っている。

2005年4月に会社更生法を申請した水間鉄道は、翌06年6月には手続きを終結。わずか1年2カ月で経営破綻から立ち直ると、ICカードの導入や水ナスの車内販売などで話題をつくる。クリスマスイベントに大晦日の終夜運転、車内落語会……次々行われる取り組みは多種多様。次には何が予定されているのだろうか。

バスのような電車

水間寺への参詣の足として設立された水間鉄道だが、幹線道路ができたことから参詣客の利用は減少。現在では地元に着した生活路線になっている。10ある駅のうち8つは無人駅だが、通勤通学時の混雑はかなりのもので、そのときだけ駅員さんが配置される駅もあるほどだとか。貝塚駅から南海電鉄に乗り換える利用者も多いことから利便性を考えて09年にはICカードも導入されている。

鉄道会社には珍しい女性社長、関西佳子さんによれば「これだけの利用者がいらっしやらないければ、経営再建は無理だったと思います」とのこと。貝塚駅から電車に乗ると、なるほど乗客は意外に多い。2両編成の車内を関西弁が軽快に飛び交う。

貝塚駅を出ると終点まで無人駅。乗り降りにはICカードリーダーにタッチするか、乗車時に整理券を取って下車時に運賃を支払う方

法で行うが、全ての無人駅にカードリーダーを設置するにはメンテナンスの不安があるしお金もかかる。そこで設置場所はバスのように車内のドア脇。整理券の出ってくるスリムな形のカードリーダーは、バス用のものだ。乗客はほとんど地元の人らしく、迷わず「ピッ」と乗り降りしていく。

多彩な企画は周りと連携

乗り込んだ車両の外装は、青いラインに楕と水間観音の三重塔をあしらったシンボルマーク。水間鉄道の4編成ある車両には、それぞれに四季をイメージした色のラインとマークがつけられていて、楕に三重塔は冬のマークだ。こうした装飾はヘッドマークも含めて社内ですぐ「お金がないので、できることは社内ですぐやります」と関西社長は力強く笑うが、きれいにグラフィック処理された仕上がりは、言われなければお手製だとは気がつかない。

地元との結びつきも強く、聞けば駅舎の塗り替えは沿線の児童生徒のボランティア、新年の振る舞い酒も提供してもらっているとか。春から初冬にかけて販売している「水ナス漬け」は地元の名産だし、今年の春には地元の酒蔵、井坂酒造場と共同で造った日本酒も売り出すという。お酒の名前は「鉄の道」。地方の鉄道とその沿線の酒蔵が共同して、全国共通銘柄「鉄の道」を作っていくという取り組みに参加したもので、第1弾は千葉県のいすみ鉄道と木戸泉酒造。水間鉄道と井坂酒造場

水間鉄道

【みずまてつどう】

大阪南部に位置する貝塚市内を走る5.5kmの鉄道。2005年に会社更生法を申請するも、約1年で手続き終結。貝塚駅で南海電鉄に乗り換えが可能な、周辺住民の重要な生活路線。



水間鉄道貝塚駅は南海電鉄貝塚駅と隣り合わせ



青いラインの車両には冬のシンボルマーク





水間観音駅の駅舎（右）は水間寺の三重塔（左）を模したデザイン

水間観音駅の改札。ICカードリーダーはやっぱりバス用

の造る「鉄の道」は第2弾になる。
「たくさんの『鉄の道』ができれば話題になるし面白い。他の地方鉄道会社にも声をかけているところです」。

見所は終着駅のさらに奥

さて沿線の見所は、なんとといっても水間寺。そこで、ひとまず終点の水間観音駅へと向かう。住宅地をすり抜けて走る総延長5・5km、約15分の道のりは車窓を眺めるとあっといっ間だ。

水間観音駅のクラシカルな駅舎を抜けて、門構えも重々しい古風なお屋敷の立ち並ぶ小道を行くと水間寺が見えてくる。山門のない開放的な境内に建つ本堂や三重塔は大きく、のびやか。三重塔の左手にある愛染堂には縁結びのご利益があるのだとか。お堂前に植樹された赤白の椿は、成長すれば1本の夫婦椿になるといつから不思議だ。

水間寺の背後には泉州の自然が広がる。これを楽しむにはハイキングがおすすめ。今年4月を皮切りに、水間鉄道を含む大阪の鉄道6社が月替わりで沿線ハイキングを開催する共同企画も予定されているという。水間鉄道の開催は9月。和泉葛城山麓の農園施設や農業体験施設などに立ち寄れる約12kmを4〜5時間で歩く行程は、泉州の自然を満喫できるコースだそう。

しかし、まだまだ草木も凍える季節。数時間のハイキングは辛いので、代わりに水間寺

の境内を裏手に抜けて、高台にある水間公園へ。

手入れの行き届いた芝生をぐるりと木々が囲む。見れば、まだ硬そうな花芽をつけた桜がずらり。水間寺の周辺にも桜は多く、春になったら一面の花霞が見られそう。公園の一角にある物見台からは桜の越しに貝塚の町並みも見渡せる。天気さえ良ければ大阪市内で見えるというし、きっと絶好のお花見スポットだ。

春になったら

帰りは沿線を歩いて貝塚方面へ。線路と並行するように走る道を歩いて行けば、立ち並ぶ家々の隙間や横道から線路が見え隠れしながら続いていく。駅と駅との間隔も狭く、場所によってはホームから次の駅が見えてしまうほどだから、地図がなくても大丈夫。

踏み切りの真ん中で立ち止まり、まっすぐ伸びた線路を見れば、随所にある踏み切りを人や車が渡っていく。線路脇で電車を待てば、運転手さんと目が合いそう。「住宅地ですから、途中駅にはこれといった見所が…」とのことだったが、これはなかなか面白い。遠くから「カーンカーン」と響いてくる踏切の音や人気ない無人駅にも風情がある。

水間観音駅から5駅、名越駅まで歩いて電車を待つと、晴れているのに突然、小雪がさつとちらつく。

日本酒、ハイキング、お花見…春のお楽しみまで、まだまだもう少し。



まっすぐな線路はかなり先まで見通せる



桜の向こうに貝塚の町が見える